

やさしい気持ち

熊本県 北部東小学校 6年 櫻木 寧々

私が親切について考えはじめたのは、熊本地震がきっかけです。

お父さんが単身ふにんで東京に行ってしまい、お母さんと私と弟の3人での生活が始まったばかりのころに、1回目の地震がありました。こわくてどうしていいかわからず、すぐに小学校の校庭にひなんしたのですが、真っ暗な校庭はもっとこわくて、泣きたい気分でした。

そんなとき、体育館に明かりがついて、校長先生と地いきの方が、ひなんしてきた人のお世話をしているすがたを見て、心が温かくなりました。体育館の中は、寒くて床がとても冷たかったので、私もいっしょにマットを配りました。「ありがとう」と言われて、とてもうれしかったです。

次の日、ずっと続く余震がこわかったので、おばあちゃんの家に行きました。いとこ2世帯も加わって大人数になったので、とても安心しました。でもその日の夜に2回目の地震が起きました。おばあちゃんの家はマンションの3階で、すごくゆれ、ガラスや食器のはへんだらけで危なかったのですが、また近くの小学校にひなんしました。

校庭は人であふれ、座るところがありませんでした。赤ちゃんが二人いたので困っていると、近くにいた知らないおじさんが人数分のイスを持ってきてくれました。なにげないやさしさがうれしくて、また心が温かくなりました。

座っていると、一人のお兄さんが私に近づいてきました。その人は、

「ぼくは学生で、あまりお金がないので、子どもたちの分しかないんですけど。」と悲しそうに言って、チョコレートの一つ、私の手にのせてくれました。小さなチョコレートだったけど、口の中ですぐに溶けてしまったけど、とてもおいしくて、「がんばろうね」と言ってくれたお兄さんの笑顔に、なみだが出ました。

そのとき、(やさしい気持ちって、なんて温かいんだろう。できることは人それぞれちがうけど、どんな小さなことでも、とてもありがたいことなんだ!!)と思いました。夜の間ずっと余震が続いてこわかったけど、ゆれるたびに「大丈夫ですか?」とみんなで声をかけ合い、みんなでみんなを思いあって、校庭はやさしさであふれていました。

親切とは、相手を思いやる気持ちだと思います。相手の気持ちになって考えれば、自然と親切になれるのです。

たまに、体の不自由な人などを変な目で見ると、そんな人を見ると、とても残念に思います。自分がそんなふうに見られたとき、どんな気持ちになると思いますか?考えたことありますか?

いろいろな人がいて、いろいろな考え方があから、気持ちがぶつかってケンカになったりします。みんなが少しでも相手を思うやさしい気持ちをもてれば、もしかしたら世界中の戦争もなくなるかもしれません。私にできることはとても小さいけど、やさしい気持ちをもって毎日を過ごしていきたいと思います。